別紙様式（B4横型）

平成31年度　学校自己評価表　（計画段階　・　実施段階　）

学校番号 61

福岡県立小郡高等学校長　印

学　校　運　営　計　画　（4月）

評　価　（3月）

学校運営方針	明るく豊かな心を持ち、英知に富み、たくましい精神力と強靭な体力を持った、力強く生き抜く若人の育成を目指す。	
昨年度の成果と課題	年　度　重　点　目　標	具　体　的　目　標
本校は昨年度、創立35周年というひとつの節目を迎え、北筑後の伝統校として新たな未来への出発を誓って教育活動を進めてきた。本校では創立当初から、校訓である「忠恕　明徳　剛健」の3つを柱として自ら未来を切り拓かんとする開拓精神にあふれた生徒を育成してきた。平成30年度は、福岡県教育委員会から筑後地区で唯一「グローバル人材育成強化校」に指定され、英語活動指導員（EAS）が配置される中、全ての教科において英語イマージョン教育を軸として授業改善を進めてきた。また、「高校生小論文コンクール」においては、小論文指導をキャリア教育の一環として学校教育活動に積極的に取り入れてきた実績を評価され、学校部門で特別表彰を受けた。近年の高い志願倍率にも表れているとおり、普通科進学校として地域から高い注目を集めている。平成31年度は、募集人員が1クラス減となったもののこれまで以上に勢いのある学校として一層の存在感を増すべく積極的に取り組む。 情報や文化、人々が行きかう九州のクロスロードにあたり今後ますますの発展が期待される小郡市に位置する本校は、地域の中心となる進学校として、校訓に示された「忠恕」「明徳」「剛健」を兼ね備えた「イノベーター～自らの手で未来を切り拓き、激動の未来を生き抜くたくましい生徒　～」の育成が本年度の課題である。 【キーワード】「目指せイノベーター」 【柱となる取組】 ○「一人1チャレンジ」 ○「実践的英語力を持つグローバル人材の育成」 ○「OGR（Ogori Global Research）プロジェクト」	2年目となる「グローバル人材育成強化校」の指定を受け、生徒が英語でコミュニケーションを図る機会を拡充し、論理的思考力、判断力及び表現力に加え、実践的な英語力を身に付けたグローバル人材の育成を更に進める。	英語科はもとより、すべての教科で、英語活動指導員（EAS）を積極的に活用した英語イマージョン教育を展開することにより、グローバルに活躍できる人材を育成するとともに、学校の教育活動の活性化を図る。
		更に多くの教育活動において英語を活用する場面を設定しながら英語の4技能をバランスよく学ばせることで、新たな大学入試に対応できる実践的英語力を育成するとともに、各教科の教科指導力の向上に努める。
	生徒の可能性を最大限に引き出し、未来に向かって自ら一歩を踏み出す力を持つ生徒を育成するため、全職員をあげて授業改善に取り組む。その中で切磋琢磨し、チームとして協働する教師集団づくりを目指す。	教育の専門家として常に最新の情報と知識を持ち、生徒に対してわかる授業、力のつく授業を提供できるよう、常に研修を重ね進化し続ける教師集団を目指す。多様化する生徒ひとりひとりの個性を多面的にとらえて可能性を引き出す授業を展開する。
	本校の目指す学校像の中に謳われている「師弟同行」の精神のもと、教師自身が生徒とともに実践をし、的確な声かけを継続する中で、力強い心と身体、豊かな人間力をもったイノベーターを育成する。	激動の時代においてイノベーターとして逞しく未来を創り出す折れない心と強い身体、確かな学力を持った人物を育てるため、あらゆる場面において、生徒が周囲と協働しながら主体的に課題の解決にチャレンジする機会を与える。
		人権・同和教育を推進し、教師との信頼関係のもと、あらゆる教育活動において自他を尊重する態度を養い、いじめ等のない安心して学べる環境を構築する。
		「文武不岐」の精神のもと、部活動への積極的な加入を促すとともに活動内容の充実を図り、逞しい心と身体を育て、心身の調和のとれた発達を促す。
	本校キャリア教育の柱である「OGR（Ogori Global Research）プロジェクト」を更に推進し、生徒に高い志を持たせるとともに、高い目標や課題を個々に設定させ、チャレンジしながら自己の可能性を伸ばし、希望進路の実現を図る機会を設定する。	「何のために学ぶのか」、「人生をどう生きるのか」といった根源的な問いかけを続けることにより、生涯を通したキャリア意識を醸成する。
		目標達成に向け、既存の知識を活用しながら新たな切り口で課題を解決することにチャレンジする機会を様々な場面に設定することで創造力や考え抜く力を育てる。
		総合的な探求の時間を計画的に実施し、課題解決力を育成するとともに、自らの意見をまとめ、適切かつ積極的に伝える能力を育てる。
		ポートフォリオを積極的に活用し、AO入試や推薦入試など多様な入試制度にも対応できる力を育成する。
		進路ガイダンスや学校説明会の実施、オープンキャンパスや出前講義の活用により、幅広い選択肢を持たせ、志を高めさせる。
		Society5.0に対応できる力を育てるため、様々な機会を通じて、インターネットやSNS等から発信される世の中にあふれる情報について、正しく判断し主体的に活用できるメディア・リテラシーを身に付けさせる。
	全ての生徒に対し「一人1チャレンジ」に取り組ませることで達成感や自己肯定感を味わわせ、精神的な強さや忍耐力の育成を図る。何事にも全力を出して取り組み、進化し続ける姿勢を持つよう、様々な機会をとらえて指導する。	大運動会・三国が丘祭等の学校行事や部活動・生徒会活動等の日常の継続的な活動の中で、それぞれが課題を乗り越えるために自ら目標を設定し仲間と協働して活動するチャレンジの機会を与えることを通して、考え抜く力と強い忍耐力を育てる。
		自ら進んで気持ちの良い挨拶（静止礼）ができるよう指導するとともに、ノーチャイム制をとおして主体的な時間の管理と基本的生活習慣を確立させる。
		校内外の清掃活動やボランティア活動など、生徒が様々な人々に出会い協働して活動する機会を積極的に設けることにより、広い視野を持ち、高い判断力や表現力を持った生徒を育成するとともに、望ましい勤労観や職業観を持たせ、社会に貢献する態度を養う。
	地域の理解と協力を求めながら、地域と連携して生徒を守り育てるとともに、コミュニティに対して積極的に貢献する視点に立ちながら、本校の教育活動に関する広報活動を推進し、保護者や地域と協力して開かれた学校づくりに努める。また、教師自らの工夫や努力に加え、保護者や地域の理解を得ながら、持続可能な働き方を推進する。	地域に愛され、求められる学校となるために、日ごろから地域との連携を図る。特に三国が丘校区（本校所在校区）が行っている小・中・高・関係行政機関の連携において、中等教育機関として推進的な役割を担う。
		中学校訪問、教育機関訪問、進路相談事業等において、広報委員会を中核とした全職員による組織的な広報活動を展開する。
		ホームページや広報紙等を通じて、生徒の活躍や日常の教育活動等をきめ細かに発信し、保護者との連携を深めるとともに地域からの信頼や理解を得る。
		業務の効率化を図りながら、教師自身のメリハリのある働き方を促進する。教師自身が健康ではつらつとして生徒と向き合う時間を確保し、更に教育効果を高める。

評価項目	具　体　的　目　標	具　体　的　方　策	評価（3月）			次　年　度　の　主　な　課　題
学習指導	「確かな学力」の育成に向けて、さらなる授業改善に取り組む。また、研修部と連携してイマージョン教育を推進し、グローバル人材の育成について学校を挙げて取り組む。	年間を通じて授業改善の研修等を積極的に行い、イマージョン教育の推進や研究授業・公開授業を積極的に行う。これまで以上に教員の授業力向上に努める。				
		「主体的対話的で深い学び」の実現に向けて、すべての教科においてアクティブ・ラーニングの導入をさらに促進するための研修や情報提供を行う。				
		電子黒板やプロジェクターなどのICTを使用した授業をさらに広めるために、情報課と連携して、ICTを使った授業の方法や効果についての周知を広める。				
		観点別評価に基づいた適切な評価方法について再検討し、生徒の実態に応じた授業・評価方法の改善に取り組む。				
	「イノベーター」育成のための具体的なプログラムを実施し、生徒が自ら学習に向かい、修得した知識をアウトプットすることができる能力を育成する。	プレゼンテーション能力育成のための講演会やプログラムを作成し、効果的に実施する。				
		家庭学習時間調査の結果を的確に分析し、効果的な授業や課題の工夫につなげる。実施時期や方法を改善し、生徒が自ら目標を設定し、学習に自主的に向かう姿勢を育てる。				
		授業アンケートについて、実施時期や方法を改善し、具体的に授業の検証、改善につなげる。				
	新学習指導要領に基づく「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、教育課程の検証・研究を行い、学校の特色を活かした「カリキュラム・マネジメント」を推進する。	新学習指導要領の詳細な内容について、十分に研究し、職員に対しての適切な情報提供を行う。				
		本校の教育課程が「社会に開かれた教育課程」となるように、具体的な編成を行う。				
生徒指導	生徒の自己指導能力や基本的生活態度を育成する。	日常生活において、時間厳守、校内美化、容儀、静止礼を含む挨拶や言葉遣い等の実践的態度を身に付けさせる。				
		校内風紀の維持・向上を図るため、服装・頭髪検査を定期的に実施する。				
		携帯電話・スマートフォン、インターネット等については適切な使用を継続して指導し、睡眠時間や家庭学習習慣が保持できるように指導する。				
	学校安全の充実を図るとともに、安全に対する意識を高め、主体的に行動する態度を育てる。	学校いじめ防止基本方針に基づく取組を行い、家庭・保健環境課と連携を密にし、いじめの未然防止や早期発見、迅速な対応に努める。				
		外部の専門家と連携し、薬物乱用防止教育を含めた暴力団排除教育や女子防犯教育等の授業改革を行い一層の充実を図る。				
		事故等の未然防止に向けた実践的態度を育成するため交通安全教室や自転車点検、乗車マナーを含む公衆マナー指導を実施する。				
	豊かな人間性の育成を図り、心身の調和のとれた発達を促す。	生徒会活動や学校行事を充実させ、諸活動に挑戦させることで、経験を通して社会性や主体性の伸長を図り、リーダーシップやイノベーターの育成につなげる。				
		部活動加入率80％を継続して達成するために新入生仮入部期間等を活用し、部活動の充実とともに安全指導や安全管理を徹底して行い事故等の未然防止に努める。				
		校外清掃活動やボランティア活動への積極的な参加を促し、豊かな人間性の向上を目指す。				
進路指導	各分掌・学年と連携し、生涯を通したキャリアプランニングに必要な資質、能力を高め、イノベーターを育成する。	自己管理手帳を有効に活用し、各分掌・学年と協力してガイダンスや面談を行う。				
		様々な進路ガイダンスを通して生徒のキャリアガイダンスの基礎を構築する。				
		生徒向けの郊外活動プログラムを周知徹底し、積極的に参加を勧める。				
	「総合的な探究・学習の時間」における探究活動を通して、生徒が自ら課題を見出し解決に取り組むのに必要な思考力、判断力、表現力及び協働的に取り組む態度を育む。	1年(ファーストステージ)：課題研究の基礎を学び、研究成果を発表する機会を設定する。				
		2年(セカンドステージ)：SDGsを基に生徒自ら課題を考察し教科横断的な探究活動を通して協働的に課題解決に取り組む。また、研究成果プレゼンテーションの機会を設定する。				
		3年(ファイナルステージ)：学部学科研究や志願理由書作成に加え、進路ガイダンスを充実させることにより、進路目標実現に主体的に取り組む態度を確立させる。				
	模擬試験等の活用を徹底し、希望進路の実現に向けた指導を充実させる。	模擬試験に向けたPDCAサイクルを確立させ、学習内容の定着化を図る。				
		模擬試験の分析における各教科の今後に向けた具体的取り組みを充実させる。				
		模擬試験結果等の様々なデータを活用し、適切できめ細やかなキャリアカウンセリングを行う。				
第1学年	基本的生活習慣を確立させる。	食事、睡眠を適切に取り、生活リズムを整えさせることにより出席皆勤を目指させる。（目標100名以上）				
		時間厳守（5分前行動）、社会で通用する挨拶（静止礼）・服装・礼儀・言葉使いなどの意義を理解させ、指導の徹底を図る。				
		手拭きによる清掃活動を定着させ、美化意識の向上を図る。				
	自律的学習習慣を確立させ、進路意識の高揚を図る。	挨拶、話を聞く姿勢等の授業規律を徹底させ、学習環境を整え、学習意欲を高めていき、授業出席率98％以上を目指す。				
		主体的で対話的な学習を実践し、課題等の提出の徹底を図るとともに、能動的な学習に取り組めるようにする。				
		自己の進路について、様々な場面で考えさせる機会を設け、進路目標を早期に設定させる。				
	校是『文武不岐』に基づいた指導を実践する。	部活動への加入率90％以上を目指し、生徒会活動も積極的に奨励していく。				
		高大接続の入試改革を見据えて、自己肯定感を高めさせ、生徒の自主性を引き出し、ボランティア活動など積極的に取り組ませる。				
		文武において「一人1チャレンジ」を意識させるとともに、上級生を見て学ぶ姿勢を持たせ、リーダーの育成に努める。				

別紙様式（B4横型）

学校番号 61

平成31年度　学校自己評価表　（計画段階 ・ 実施段階 ）

福岡県立小郡高等学校長　印

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題
第2学年	基本的生活習慣に基づいた自己管理能力の育成を行う。	授業や学校を休まない雰囲気づくりに努め、皆勤者100名以上を目標とし、達成できるように指導を行う。				
		挨拶（静止礼）、端正な制服の着こなし、清掃活動、5分前行動が自発的に、日常的に実践できるよう粘り強く指導を行う。				
		集団生活におけるマナーや他者への気遣いなど周囲の状況から的確に自らの行動をとれるよう指導を行う。				
	キャリア教育の充実による課題解決力の育成及び進路意識の高揚。	OGRプロジェクトや海外修学旅行などを通して、自ら課題を見つけ解決する能力や実践的英語力などを向上させることで自らの可能性を広げ、イノベーターとなる人材を育成する。				
		思考力・判断力・表現力をあらゆる場面で習得できるよう、場面に応じた計画を立て実践し、学力やコミュニケーション力の向上に努め				
		一人一人が日々課題を設定し、達成感・充実感を知り、進路実現に向けて突き進むよう指導を行う。				
	『文武不岐』の精神に基づいたリーダーの育成を行う。	学校の中堅として、先輩を支え、後輩を導き、活気のある学校生活が送れるよう支援する。				
		学校行事・生徒会活動・部活動などに積極的に参加し、生徒の自主性を育成させる。				
		ボランティア活動に積極的に参加し、社会に貢献できる人材を育成する。				
第3学年	生徒一人一人の進路実現を図る。	進路目標を明確にさせ、常にチャレンジ精神を持ち、最後まで諦めない姿勢で臨ませる。				
		各自で学習状況を把握し、よりよい学習環境を整え、自学の充実を図る。				
		生徒へ進路情報を発信し、職員間の情報共有を正確に行い、個に応じた進路指導の徹底を図る。				
	自主自立の精神でグローバルな観点に立ち、社会に貢献できる人間の育成に努める。	授業や学校を休まない雰囲気づくりに努め、皆勤者100名以上、出席率98%以上を目指す。				
		「読む」「書く」「聞く」「話す」力をあらゆる場面で習得し、様々な場面で発揮できるようにする。				
		イノベーターとなる資質を育成する。				
	模範となる行動を心掛け、リーダーとなる資質を育成する。	最上級生として自覚ある行動を促すとともに、リーダーシップ・フォロワーシップを身に付けさせ、集団の一員としての自他を尊重する態度を育成する。				
		文武不岐の精神のもと、学校生活だけでなく、ボランティア活動にも積極的に参加できる姿勢を持たせる。				
		新たな伝統校のひとつである小郡高校の最上級生として、下級生に対してよい伝統を繋げていく。				
保健・環境	健康教育を推進し、気力・体力を備えた生徒を育成する。	保健室と連携しながら、健康的な生活習慣の大切さを理解させ、身に着けさせる。				
		生徒保健委員会の活性化を図り、健康に関する啓発活動を行う。				
		AED講習会等の研修を通して、危機管理能力を高めさせる。				
	教育環境の美化・整備に努める。	教職員の監督・協力のもとに、日常の清掃活動の徹底を図る。				
		生徒環境委員の活性化を図り、校内の美化・整備に積極的に参加させる。				
		美化コンクールを実施し、生徒の美化意識を高める。				
	教育相談活動を充実させ、支援が必要な生徒には一人ひとりに適切な対応をする。	教育相談委員会を定期的に開催し、情報の共有に努め、対応を協議し、必要な支援をする。				
		心の相談を実施し、必要に応じてケース会議を行い、生徒へ適切な支援をする。				
		拡大学年会、生徒情報交換会、教育相談委員会の相互連携を図り有効な支援をする。				
図書研修	英語イマージョン教育の推進と指導力向上のための職員研修の充実を図る。	各分掌と連携し、本校の教育活動をテーマにした職員研修を企画・実施する。				
		グローバル人材育成のために、教科と連携して英語イマージョン教育を活かし、年間を通して授業改善研修に取り組む。				
		研修情報の提供に努め、校外研修への積極的な参加を促す。				
	読書活動を通して豊かな心や思考力・表現力を育成する。	「朝の10分間読書」を充実させ、読書習慣を確立させる。				
		「ビブリオメッセージ」を実施し、読書体験の共有化と表現力の向上を図る。				
		図書館だよりの発行および朝の放送等を利用して、図書館利用の促進し、継続的な読書指導を行う。				
	教育活動全体を通して人権同和教育を推進する。	各学年と協力し、人権・同和教育特設授業の内容を充実させる。				
		各分掌と連携し、生徒理解を深め、人権感覚を涵養するための研修を企画・実施する。				
		校外の人権・同和教育研修への積極的な参加を推進する。				
企画	広報活動のさらなる充実	「学校案内」「小郡高校ニュース」の内容をさらに充実させ、効果的な活用を検討・推進する。				
		「第8学区中学生進路相談事業」を昨年以上に充実したものにする。				
		生徒主体の広報活動を企画し、実施する。				
	計画的な年間行事の企画・他分掌との連絡	各学年・各分掌と緊密な連絡調整を行い、綿密な計画の下、位置づけを明確にして、担当行事を円滑に実施する。				
		父母教師会・同窓会と緊密な連絡調整を行う。				
		広報委員会との調整を行い、中学校訪問をさらに充実したものにする。				
	記録および基本情報との管理	他分掌にも依頼し、行事ごとに記録係を設け、画像・映像により積極的に記録する。企画課が取りまとめて整理する。				
		基本情報（職員名票・住所録・緊急連絡表・行事予定等）の計画的な作成と管理を行う。				
情報	ICTを活用した授業の推進	電子黒板を活用した授業の推進だけでなく、OneDrive等新たなサービスも積極的に取り入れていくよう推進する。				
		教室での授業用パソコンやプロジェクタを活用した授業を推進する。				
		教室での書画カメラやデジタルカメラ等のICT機器を活用した授業を推進する。				
	学校ホームページの充実	ホームページへの掲載内容を随時点検し、担当部署と連携をとり新しい情報に更新する。				
		中学生や保護者等、地域の方への広報活動という意識で、ホームページの作成に協力してもらうよう職員と連携する。				
		各学年・部活動のホームページ担当者と連携を図り、各行事・部活動のページの充実を目指す。				
	校務用ネットワークおよびICT機器の適切な管理	授業の際の教室や講義室の予約や職員間の連絡に、学校ポータルサイトの積極的な活用を図る。				
		校務用パソコンの保守については、県のサポートとの連携をとりトラブルに迅速に対応する。				
		パソコンやプロジェクタや書画カメラやUSBメモリ等の管理を確実に行う。				
事務	めざす教育課程実現を支援する環境整備	各年度の学校重点目標、新学習指導要領を意識した環境整備を行う。				
		教務課、進路指導課との情報共有を図り、重点目標の実現に向けた施策への予算を確保する。				
		施設の大規模改修に向けて、教務課、進路指導課との共通認識をもち、プランニングを進める。				
	リスクマネージメントの強化	学校全体での危機の未然防止体制を構築する。				
		「ヒヤリハット事例」の集束・分析を行う。				
	教育職との協働を強化するための事務室からの発信の強化	事務室の取組、事務室で把握している課題について「事務室からのお知らせ」を定期発行する。				
		各学年に担当職員を定め、より緊密な情報交換に努める。				
		広報委員会に事務職員を参加させる。				